

病児保育室「あんず」のチョットアノネ

No. 79 (2023. 12. 20.)

テーマ: インフルエンザの合併症

インフルエンザ警報

年内に流行が始まったインフルエンザは急速に拡がり、定点(インフルエンザを毎週報告する医療機関)の報告が週 30 名を超え警報が発令されました。インフルエンザは急な発熱(38℃以上)、呼吸器症状(咳嗽、鼻汁、咽頭痛)と全身症状(全身倦怠、関節痛、筋肉痛、頭痛、食欲不振)の症状で発症します。インフルエンザ抗原迅速測定により早期に診断できれば、インフルエンザ治療薬(経口薬 2 種、吸入薬 2 種、点滴薬 1 種)の使用により比較的早く治ることが期待できます。しかし場合によっては合併症を起し後遺症を残したり、死に至る危険もありますから注意が必要です。現在は重症化を防ぐためにはインフルエンザワクチン接種が有効と考えられています。

インフルエンザの症状・経過



インフルエンザの重大な2つの合併症

それは、インフルエンザ肺炎とインフルエンザ脳症です。インフルエンザに罹患後、咳が激しく熱も続き、呼吸が苦しいような状態があれば、**インフルエンザ肺炎**の可能性があります。血液検査やレントゲン検査により診断しますが小児よりは高齢者で死亡率が高いので注意が必要です。**インフルエンザ脳症**の症状は急性の意識障害が100%、痙攣(けいれん)が約80%、異常言動が約20~30%との報告があり、このような症状があらわれた場合は、直ちに主治医の先生(休日夜間は急患診療所)の診察を受ける必要があります。インフルエンザ脳症から検出されたウイルスはA型が60~80%でした。インフルエンザ脳症の年齢分布は70%が10歳未満(5歳未満が40%程度)ですから、インフルエンザ脳症はA型のインフルエンザに罹患した子どもに多いといえます。また、ある種の薬剤(ある種の解熱剤など)を使用すると脳症の危険性が高まる事が知られており、服薬には注意が必要です。脳症と区別しなければならぬものにインフルエンザによる**異常行動**があります。発病から3日以内に多く見られ、急に外に飛びだしたり、意味不明な行動をしたり、変なことを話したりします。ですから、インフルエンザ発病後数日間は目を放さないようにしてください。熱性痙攣も見られますが、意識の回復が長引く場合も要注意です。

現在流行している病気は何ですか？

宮城県内では：第1位 インフルエンザ、 第2位 新型コロナ、 第3位 溶連菌感染症
亘理郡内では：第1位 インフルエンザ、 第2位 溶連菌感染症、 第3位 感染性胃腸炎

大友医院病児保育室「あんず」より。

インフルエンザの大流行と新型コロナウイルス感染症、そして溶連菌感染症、プール熱(咽頭結膜熱)、手足口病など多くの感染症がみられています。感染予防の基本は、密を避ける、換気をする、マスクをする、手洗いをする、うがいをする、そして休息と栄養を取ることです。年末年始にかけて多くの行事があると思いますが、気を付けてお過ごしください。



病児保育室「あんず」専用電話 0223-35-6455